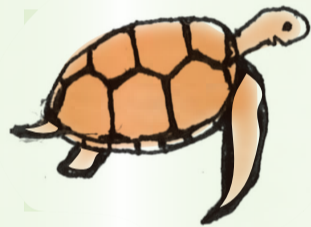




海岸樹林帯は、自然の脅威から街を守る「防波堤」

海沿いを走る国道134号の両わきに緑豊かな樹林帯がひろがっている。

海岸樹林帯があるからウミガメは産卵できる



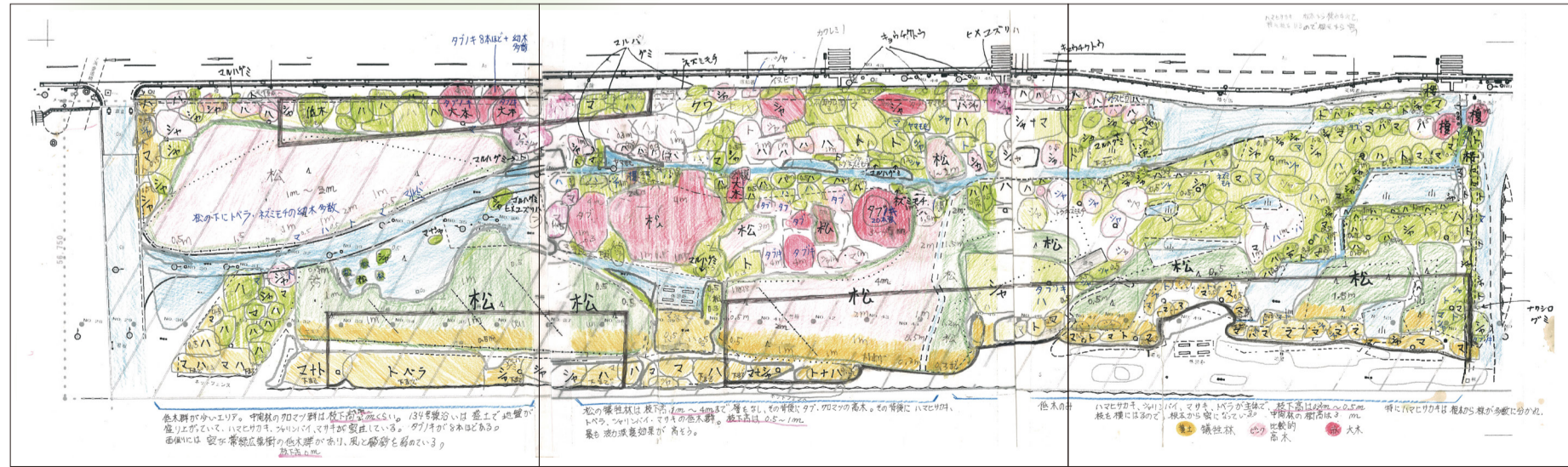
「湘南」と聞いて、あなたは何を思い浮かべますか。江ノ島でしょうか。茅ヶ崎のサザンビーチでしょうか。それとも、国道134号線を走る車内から臨む海の景色でしょうか。藤沢や茅ヶ崎の海岸沿いには、国道と浜辺の間に、カフェやレストラン、駐車場などがつくられていますが、平塚市は、長年、海岸沿いに商業施設を建てるということをしてきませんでした。そのため、海岸沿いに植えられた樹林帯が伐採されることなく残っています。一見、地味に見える平塚の海岸ですが、開発されずに残されている樹林帯が、海から吹き付ける強い風や潮や砂を防いでくれています。津波や高潮の減災効果もあると専門家からも言われています。それだけではありません。樹林帯には、街や道路を走る車の光、音を遮る効果があるので、静かな場所を好むウミガメが、産卵のために上陸することができる場所にもなっています。2022年に平塚海岸にはウミガメが産卵に来たことが分かっていますが、この年、湘南地域の海岸でウミガメが上陸したのは平塚海岸だけでした。

90年の歴史を誇る平塚・湘南海岸「湘南ブランド」はこうしてつくられた

今から90年前の1930年、当時、神奈川県知事だった山県治郎によって、湘南海岸の「原型」がつけられています。海岸線に沿って道路を通し（後に国道134号線になる）、その道路の両脇に樹木を配置して、藤沢から大磯をつなぐ湘南海岸全体を長大な「都市計画公園」として決定し、整備されていきました。これは、単に道路を通すだけでなく、海岸線の風致も同時に行うという日本最先端の「公共事業」でした。今も、湘南海岸に樹林帯が残っているのはこうした歴史があるからこそです。今も海岸樹林帯は、県の管理下にあり、簡単には伐採されないように土地利用の規制がかけられていました。しかし、今、この長年かけて築き上げてきた「財産」が、平塚市と積水ハウス等の開発によって壊されようとしています。

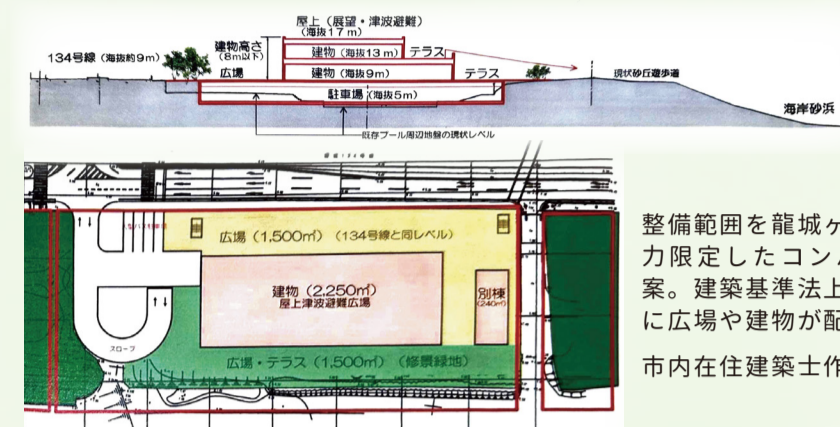


近隣住民の方が、どんな樹があるかを調べました。この樹林帯が駐車場になろうとしています。

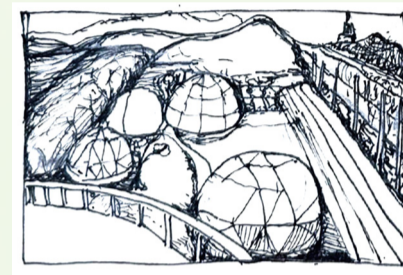


海岸樹林帯を守りながら、にぎわいをつくる開発計画案も出ていますが、無視されています。

市議會議員有志の会が地元建築士協力のもと整備代替案を提出している。プール跡地にだけ建物を建て、駐車場は地下に配置する案。



整備範囲を龍城ヶ丘プール跡地に極力限定したコンパクトな計画代替案。建築基準法上の地下駐車場の上に広場や建物が配置されている。市内在住建築士作成



プール跡地のみキャンプ場として活用する案



海岸樹林帯を生かした「フェス」も行われている

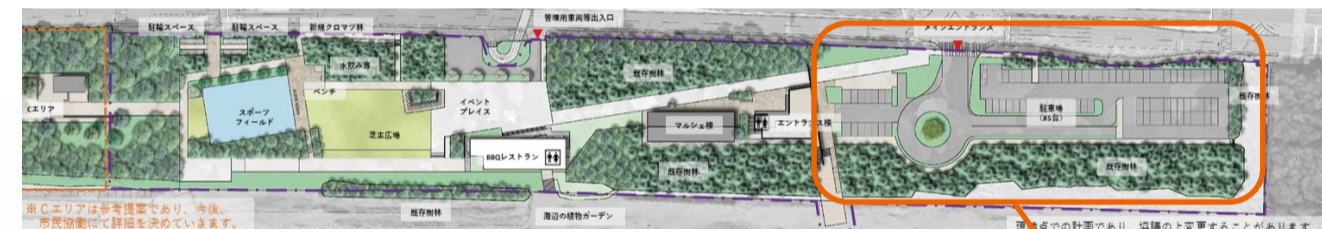


必要以上のことに見えるなあ...

木を切ってしまうのがとても不安...

困ったなあ...

海岸開発に税金23億円 収収効果は約2億円(20年間の合計)



平塚市公表資料：開発予定のイメージ図

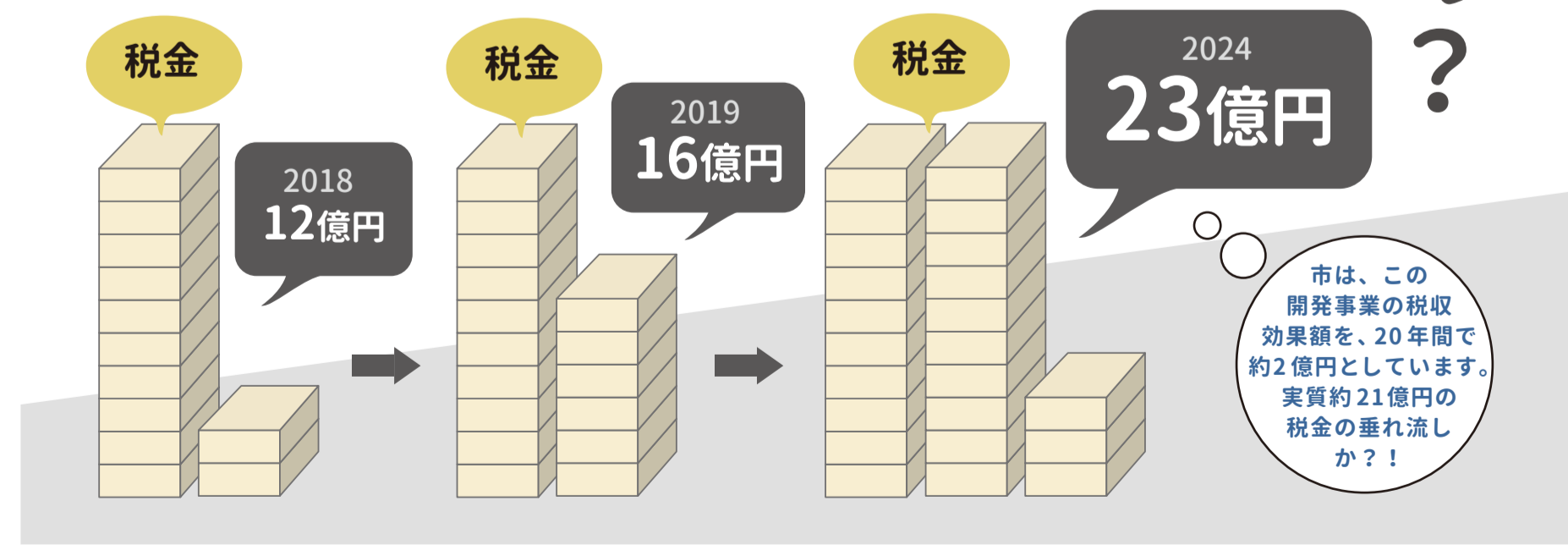
樹林帯を伐採して、ここに駐車場を作ろうとしている

海岸樹林帯伐採して有料駐車場に。駐車場収入は全て積水ハウスへ。

開発面積は約24,000㎡です。平塚市が、県から海岸の土地を借り受け、積水ハウスに貸し出します。貸出期間は20年間です。その間、積水ハウスが駐車場などの商業施設を運営しますが、その駐車場収益は全て積水ハウスに入る仕組みになっています。

どんどん増える事業費。当初計画の約2倍に。

当初、平塚市は、12億円(2018年当時)でこの開発を行う予定でしたが、2024年2月、平塚市は、物価高騰や事業期間の延伸などを理由に、3回目の事業費の引き上げを議会に提案しています。その額23億円。当初計画の2倍近くにまで跳ね上がっています。



市は、この開発事業の収収効果額を、20年間で約2億円としています。実質約21億円の税金の垂れ流しか？！

防災、環境、税金、失うものが多いすぎる... 海岸の開発計画、いったい何のため?